授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
音楽Ⅱ		演習(実技)	堀切真寿美、前田聡子、阿部宏絵 豊田牧子、梶原裕子、福田登志子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年·時期	必修•選択
15回	2 単位	2年前期	選択必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		ピアノ実技 60%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		歌唱等 35% 授業への取り組み姿勢(チェックシートなど) 5%	
領域及び保育内容の指導法に関する科目			

様々な音楽活動を通して、感性豊かな表現を育む。豊かで、楽しい音楽経験を展開できる保育者を目標とする。

### [授業全体の内容の概要]

1クラスを合同授業とピアノの個人レッスンに分け、45分交代とする。合同授業では、子どもが意欲を持って歌を楽しめるよう、歌への興味を引き出せる指導のポイントを習得する。グループでドラムジカを作り、発表する(45分)。ピアノの個人レッスンでは、個人の能力に応じた課題を演習する(45分)。

### [授業修了時の達成課題(到達目標)]

保育現場での実践に対応できる力、そして即戦力となる力を身につける。

## 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	2年前期(30回中の15回)	
	(合同授業)	(個人レッスン)
1	ガイダンス(授業概要の説明、受講の諸注意、	学生の進度に応じた個人レッスン
	選曲や導入など子どもに教えるポイント)	
2	歌唱指導 (季節の歌)	(個人レッスン)
3	歌唱指導 (季節の歌)	(個人レッスン)
4	歌唱指導 (季節の歌)	(個人レッスン)
5	教育実習に向けての歌の教え方	(個人レッスン)
6	教育実習に向けての歌の教え方	(個人レッスン)
7	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
8	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
9	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
1 0	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
1 1	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
1 2	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
1 3	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
1 4	前期まとめ【ピアノ演奏4分程度、グループ発表	15分程度】
1 5	前期まとめ【ピアノ演奏4分程度、グループ発表	15分程度】

## [使用テキスト・参考文献]

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学

- (1)株式会社 学研プラス「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻改訂版」
- (2)株式会社 学研パブリッシング「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻」
- (3) (有) ケイ・エム・ピーkmp 「ピアノといっしょに みんなでうたう たのしいこどものうた 改訂版 簡易伴奏ピアノ・ソロ」 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
- 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 省、厚生労働省)
- 必要に応じてプリントを配布する

#### 備考

ピアノ演奏は、音楽表現室で発表を行う。また、グループ発表は、100人教室もしくは大ホールにて行う。

令和5年度 2学年シラバス (学生用)

実務経験〔前田〕

ヤマハのピアノ講師の経験を持つ

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
音楽Ⅱ		演習(実技)	堀切真寿美、前田聡子、阿部宏絵 豊田牧子、梶原裕子、福田登志子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
15回	2 単位	2年後期	選択必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		ピアノ実技 60% 歌唱等 35% 授業への取り組み姿勢(チェックシートなど) 5%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			

様々な音楽活動を通して、感性豊かな表現を育む。豊かで、楽しい音楽経験を展開できる保育者を目標とする。

### [授業全体の内容の概要]

1クラスを合同授業とピアノの個人レッスンに分け、45分交代とする。合同授業では、楽器を使って歌への興味を引き出せる指導のポイントを習得する。グループでドラムジカを作り、発表する(45分)。 ピアノの個人レッスンでは、個人の能力に応じた課題を演習する(45分)。

## [授業修了時の達成課題(到達目標)]

保育現場での実践に対応できる力、そして即戦力となる力を身につける。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	2年後期(30回中の15回)	
	(合同授業)	(個人レッスン)
1	ガイダンス(授業概要の説明、受講の諸注意、	学生の進度に応じた個人レッスン
	ドラムジカを作るポイント)	
2	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
3	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
4	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
5	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
6	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
7	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
8	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
9	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
1 0	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
1 1	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
1 2	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
1 3	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	(個人レッスン)
1 4	後期まとめ【ピアノ演奏4分程度、グループ発表	20分程度】
1 5	後期期まとめ【ピアノ演奏4分程度、グループ発	表20分程度】

# [使用テキスト・参考文献]

- (1)株式会社 学研プラス「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻改訂版」
- (2)株式会社 学研パブリッシング「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻」
- (3) (有) ケイ・エム・ピーkmp 「ピアノといっしょに みんなでうたう たのしいこどものうた 改訂版 簡易伴奏ピアノ・ソロ」
- 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)
- 必要に応じてプリントを配布する

## 備考

ピアノ演奏は、音楽表現室で発表を行う。また、グループ発表は、100人教室もしくは大ホールにて行う。

令和5年度 2学年シラバス (学生用)

実務経験〔前田〕

ヤマハのピアノ講師の経験を持つ

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子ども家庭支援論		講義	田中 賀奈子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
15 回	2 単位	2年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の本質・目的の理解に関する科目			
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		レポート・発表 30%	。 授業内確認テスト 70%
選択科目			

現代社会において、保育士は子どもの保育だけでなく、家庭や家族に視点をあて支援していくことが求められている。社会の変容に伴う家族の変化や関係について知り、子ども家庭支援に纏わる法律や制度を理解することをねらいとし、保育士による子ども家庭支援の意義や役割について学ぶことを目的とする。

### [授業全体の内容の概要]

この授業では、子育て家庭のニーズや支援の現状、課題を知り、これまでに実施されてきた子ども家庭支援の制度や政策がどのように活かされてきたかを学ぶ。また学生自身にとっての家族観を明確にすることを通して、多様化し変化し続ける現代の家族・家庭を理解する姿勢を身につけ、その支援について具体的に考える。

### [授業修了時の達成課題(到達目標)]

授業を通し、学生自身の家族観を明確にし、現代の家庭が抱える様々なニーズや支援状況を知ることから、 保育士としての子ども家庭支援の役割を学び、理解することを目標とする。

授業の日	授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	
コマ数		
1	子ども家庭支援の必要性と機能	
2	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	
3	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	
4	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	
5	子どもの育ちの喜びの共有	
6	保育士に求められる基本的態度(1)	
7	保育士に求められる基本的態度(2)	
8	保育士による地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	
9	保育所での子ども家庭支援の内容と対象	
1 0	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	
1 1	地域の子育て家庭への支援	
1 2	要保護児童等及びその家庭に対する支援	
1 3	まとめ	
1 4	子ども家庭支援に関する課題と展望	
1 5	ふりかえり	

### [使用テキスト・参考文献]

『子ども家庭支援論』佐藤ちひろ・松倉佳子・原信夫編著 株式会社 北樹出版 授業中に適宜資料を配布する

### 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子ども家庭支援の心理学		講義	庄司ふき子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年·時期	必修•選択
15 回	2 単位	2年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の対象の理解に関する科目		授業内確認テスト (50%), 授業内小レポート(50%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			

本授業は,生涯発達心理学的な視点から,子どもや,その家庭を包括的に捉え,支援を行うために必要な知識・技術を習得することを目的としている。

## [授業全体の内容の概要]

本授業では、子ども及びその家庭を支援する際に重要になる、生涯発達心理学、家族・家庭を取り巻く課題と 支援、子どもの精神保健等について取りあげる。講義形式で授業を行うとともに、事例に基づくディスカッションなどを行う。

### [授業修了時の達成課題(到達目標)]

- 1. 生涯発達における各発達段階の特徴及び課題について理解する。
- 2. 子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、個別的・包括的に支援することの必要性を理解する。
- 3. 子どもの精神保健に対する基本的な知識及びその対応について学び、理解する。

# 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	オリエンテーション・子どもとその家庭を支援するために重要な生涯発達心理学の視点について
2	生涯発達とは何か
3	乳幼児期から学童前期にかけての発達
4	学童後期から青年期にかけての発達
5	成人期・老年期における発達
6	子どもの生活・生育環境とその影響
7	子育てを取り巻く社会的状況
8	家族・家庭の意義と機能,親子・家族関係の理解
9	子育ての経験と親としての育ち―ライフコースと仕事・子育て―
1 0	多様な家庭形態とその理解
1 1	特別な配慮を必要とする家庭
1 2	発達支援の必要な子どものいる家庭
1 3	子どもの精神保健
1 4	子どもの育ちに大切なこと
1 5	授業内確認テストとまとめ

## [使用テキスト・参考文献]

# テキスト

青木紀久代編 【シリーズ知のゆりかご】「子ども家庭支援の心理学」 みらい,2019

# 備考

定期テストは実施しない。上記は予定であるため、必要に応じて学習の順番を前後させたり、内容を追加することがある。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子どもの食と栄養Ⅱ		演習	鈴木 一子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修·選択
15回	1 単位	2年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の対象の理解に関する科目		受講姿勢(10%) 課題レポート(20%) 授業内確認テスト(70%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			

- ・保育における食育の意義・目的・基本的な考え方、その内容等を理解する。
- ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
- ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

## [授業全体の内容の概要]

- ・「食育基本法」の目的と意義について学び保育所・幼稚園等が家庭や地域社会と連携をとりながら、食を通して子どもたちの発達や保護者への子育て支援についてどのように支援するかを学ぶ。
- ・児童福祉施設の特徴を捉えたうえで、各施設における栄養・食生活のあり方、家庭との連携について学ぶ。
- 特別な配慮を要する子どもの食事への対応について学び、食事支援の方法を理解する。食物アレルギーについてはアレルギー対応ガイドラインを参照し、最新の正しい知識を学ぶ。

# [授業修了時の達成課題(到達目標)]

- 1食育の基本と具体的な取り組みについて理解し、保育者としての姿勢、保護者への援助について身につける。
- 2家庭や児童福祉施設における食事の役割や給食の概要について理解する。
- 3 特別な配慮を要する子どもの食事への対応法を理解する。食物アレルギーがある子どもへの対応については、保護者や職員間の情報共有が重要であることを理解する。

# 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	食育基本法の概要。保育所における食育の意義・目的と基本的な考え方
2	食育のための環境の整備。地域の関係機関や職員間の連携
3	調理実習①(離乳食)  衛生管理
4	食を通した保護者への支援。 家庭における食事と栄養
5	児童福祉施設における食事と栄養 (種類と特徴)
6	保育所における食事提供の基本。食事計画
7	保育所給食の問題点と課題。児童福祉施設(乳児院、児童養護施設)
8	調理実習②(間食) 間食の必要性と意義
9	児童福祉施設における衛生管理。
1 0	疾病および体調不良の子どもへの対応
1 1	食物アレルギーのある子どもへの対応
1 2	調理実習③ (食物アレルギーのある子への代替え食)
1 3	障害のある子どもへの対応
1 4	授業内確認テスト
1 5	振り返りとまとめ

# [使用テキスト・参考文献]

子どもの食と栄養 (食生活の基礎を築くために) 飯塚美和子他2名編集。ビジュアル食品成分表大修館書店 (八 訂準拠) 幼稚園教育要領 (平成29年3月告示文部科学省) 保育所保育指針 (平成29年3月告示厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

# 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育内容総論		演習	植松啓子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
15 回	1 単位	2年前期	必須 (保)・必須 (幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目			
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		課題レポート(20%	)・授業内容確認テスト (80%)
領域及び保育内容の指導法に関する科目			

いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけて、自ら学び、考えて、判断し、行動し、問題解決する資質や能力を素地として授業の中で展開していく。人間性豊かに他人と共に協力し、他人を思いやる心を育くみ、未分化な幼児期の発達特性を理解する。 -環境を通して行う教育 - を踏まえ、子どもの遊びと環境構成、援助の在り方や、多様な保育ニーズへの対応を理解する。また、幼小との連携の在り方と実践方法を学ぶ。

# [授業全体の内容の概要]

子どもの自発性、主体性を最大限に生かす「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」「一人ひとりの発達に応じた指導」を基本とする保育において「なぜ」「「何を」「いつ」「どの場面で」「どのように」指導するかを学ぶ。 学生は、幼児一人ひとりが、喜びや充実感を伴った発達に必要な積み重ねの方法について学ぶ。

#### 「授業修了時の達成課題(到達目標)]

幼児教育の変遷や幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携認定子ども園教育の基本を理解し、遊びを総合的に捉える視点を構築する。幼児教育の基本と保育内容の理解を深める。自ら学び考えることのできる主体的な人間 形成の基礎を培う生涯教育の出発点として構築する。

## 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	ガイダンス (幼児期にふさわしい教育の方法)
2	保育という方法(保育内容の歴史的変遷・保育と幼児教育)・グループ討議)
3	環境を通しての教育(環境とは・自発的・主体的に環境をと関わる)
4	事例を通してのグループ討議
5	遊びを通しての指導① (子どもらしさ・遊び・学ぶ力・学ぶ力)
6	遊びを通しての指導② (遊びからの学び・遊びをはぐくむ環境・遊びの特性)
7	幼児の主体性との育成と「見えない保育」「「見えない保育」
8	子どもの主体性と保育者の意図 グループ討議 主体的に生活する子ども
9	保育者のさまざまな役割 保育の責任者としての基本 保育者としての資質を高める
1 0	遊びの中の学びを規定するもの(幼児における遊びと学びの関係・保育者の援助の方向性・遊びの学び)
1 1	遊びの中の学びをはぐくむ(感じる・表現・気づく・試す・考える・友達と関わる)
1 2	共通の目的に見出す協同する遊び(協同する遊びの特徴・協同することで学ぶ・協同する遊びを援助)
1 3	「5 歳児修了時までに育ってほしい 10 の姿」について教科書と資料を通して具体的に学ぶ
1 4	幼稚園の5歳児の保育アプローチと小学校におけるスタートカリキュラムの意義と重要性の基本を学ぶ
1 5	まとめ 幼稚園・保育園・認定こども園について調べ学習をし、グループ討議をする。

## [使用テキスト・参考文献]

幼児教育の方法(保育の内容・方法を知る) 小田 豊・青木 倫子編著

幼稚園教育要領解説(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)保育所保育指針解説(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)幼保連携型認定こども園・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

## 備考

## 実務経験

平成元年度・10・20・30年度と時代の流れの中で幼稚園教育要領の内容がその都度、変わっていくことが多々 あった。

しかし、一貫して文科省は変わらないこと、ゆるがないこととしては、子どもたちが環境を通して、遊びを通

して、発達に応じて主体的にかかわることで学びにつながっていくことであると記載している。 それらを保育者として学んでいく学生に、市立幼稚園教諭、園長及び市幼児教育相談員として 38 年間の長い 勤務と経験の中で、具体的な実践を通して話しながら授業を展開させていく。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
人間関係		演習	齊藤 崇
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年·時期	必修·選択
15回	1 単位	2年・前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目			
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		小テスト (20%)、レポート内容 (80%)	
領域及び保育内容の指導法に関する科目			

幼稚園要領,保育所保育指針,幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、乳幼児期の遊びや生活のあり方と発達に即して理解すると共に、領域相互を保育実践との関係を踏まえて具体的な保育を展開するための基礎的知識及び理論を身につける。

### [授業全体の内容の概要]

ICT の活用や研究・調査資料を用いて幼児教育・保育の現場における事例を常にグループで話し合うなど、ディスカッションを通して、領域「人間関係」について理解を深めると共に、領域「人間関係」の特性や乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、実際の乳幼児の生活・遊びの様子から人間関係を捉え、子どもの自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な保育・教育を考えられるようにする。

## [授業修了時の達成課題(到達目標)]

- 1.「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。
- 2. 乳幼児を取り巻く人間関係や人と関わる力の発達や学びの過程を理解し、具体的な遊び・生活場面における乳幼児の心情や保育のねらいを読み取り、指導・援助のあり方について保育を構想する方法を考えることができる。

## 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	領域「人間関係」における保育および教育の目標
2	領域「人間関係」におけるねらいと内容
3	身近な人との関わりと発達
4	保育者に求められている人間関係
5	仲間との関わりと発達
6	遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割-イメージの共有-
7	遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割-試行錯誤の過程-
8	遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割-自己主張・葛藤・育ち合い-
9	遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割-協同的な遊び-
1 0	人との関わりが難しい子どもの支援
1 1	領域相互の関連性と保育展開-指導計画の意義・作成・実践例(0~2 歳児)
1 2	領域相互の関連性と保育展開-指導計画の意義・作成・実践例(3 歳児)
1 3	領域相互の関連性と保育展開-指導計画の意義・作成・実践例(4 歳児)
1 4	領域相互の関連性と保育展開-指導計画の意義・作成・実践例(5 歳児)
1 5	「人間関係」授業のまとめ

# [使用テキスト・参考文献]

テキスト:「<領域>人間関係ワークブック」 田村美由紀・室井佑美 著(2017 年) 萌文書林 参考文献:幼稚園教育要領(平成 29 年度 3 月告示、文部科学省),保育所保育指針(平成 29 年度 3 月告示、 厚生労働科学省),幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年度 3 月告示、内閣府/文部科学省/厚生 労働科学省)

#### 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
表現Ⅱ		演習	森大
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
15回	1 単位	2年前期	選択必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		課題提出物 40% 授業態度 10% 授業内確認小テスト 50%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			

幼児期の造形表現について、領域「表現」の位置づけと意味内容を理解し指導できる技能を習得する。 想像力・創造力を鍛え、柔軟な発想力を身につける。

## [授業全体の内容の概要]

幼児の造形表現の特徴を理解し、保育者として優れた造形表現指導を行うことができる態度・能力を身に付ける。そのために平面・立体・ミクストメディア等の実践的な作品制作を通して学んでいく。また作品の展示・鑑賞・講評をすることで教育・保育現場における幼児の多様な表現の理解を深める。

### [授業修了時の達成課題(到達目標)]

造形表現を通した幼児の発達や成長を捉え、自ら指導することが出来る技能を習得しているか。 幼児の多様な表現を理解しながら、自ら課題を設定し実践することができるか。

授業の日程と各回のテーマ・	内容・	授業方法]
---------------	-----	-------

コマ数	
1	オリエンテーション(5領域「表現」の位置づけと意味内容について)
2	色について。(三原色、彩度、明度、補色、色相環、スクラッチ技法)
3	生活の中でイメージを豊かにし様々な表現を楽しむ。(アルミホイルアート)
4	表現することの楽しさを実感する制作 (ゾートロープ)
5	好奇心を引き出す制作について① (視覚、知覚について)
6	好奇心を引き出す制作について② (トリックアート)
7	身体表現について① (身体と表現の関係性:新聞紙ファッション制作)
8	身体表現について② (新聞紙ファッションショー)
9	自然との関わりについて①。(光:カラーセロファンを使った制作)
1 0	自然との関わりについて②。(風景:ビニールキャンバスによる制作)
1 1	絵本制作を通した造形表現の総括①(題材設定、計画)
1 2	絵本制作を通した造形表現の総括② (これまで習得した技能を活かした制作)
1 3	絵本制作を通した造形表現の総括③ (発表、鑑賞)
1 4	造形表現のまとめ
1 5	振り返り

# [使用テキスト・参考文献]

保育内容 表現(2018年版 光生館)

幼稚園教育要領

保育所保育指針

幼保連携認定こども園教育・保育要領

# 備考

## 実務経験

### 【個展】

「森 大 個展」 「秋山画廊」 東京 2011年12月

「森 大 -maquette-」 「キアズマ珈琲 gallery」 東京 2010年10月

「森 大 展 metabolism」 「GALERIE SOL」東京 2006年10月

「森 大 個展」 「GALERIA RASEN」東京 2001年3月

## 【グループ展】

「横浜の森美術展6」 「横浜動物の森公園予定地」 横浜 2013年10月

「11 POINT」 「BOX KIOKU」 東京 2010年9月

「ANBD Asia Network Beyond Design2010」 清州(韓国). 台南(台湾). 天津(中国). 横浜(日本)2010年7月

「ANBD Asia Network Beyond Design2009」 天安(韓国). 台南(台湾). 天津(中国). 奈良(日本) 2009年7月

「THE 5th ART PROGRAM OME 2007」 「青梅市西分町公会堂」 東京 2007年11月

「第7回 CONTEMPORARYART TRIAL「CAT展」 「グリーンホール相模大野」 神奈川 2007年9月

「07 POINT」 「BOX KIOKU」 東京 2007年3月

「maquette 展」 「GALERIE SOL」 東京 2006年10月

「cm3 空間表現三人展」 「明星大学展示室」 東京 2005年8月

「千崎千恵夫・森 大展」 「GALERIE SOL」 東京 2004年11月

「青梅野外展」 「GALERIA RASEN」 東京 2002年7月

「志向する空間/それぞれの視座 Vol.3」 「GALERIA RAEN」 東京 2001年11月

「WORKS2000」 「文房堂ギャラリー」 東京 2000年2月

「第二回 FUIINO 国際アートシンポジウム '99」 神奈川県藤野町市街地 1999 年8月

「三人展」 「Gallery KARIN スペースⅡ」 東京 1998 年 3 月

### 【他】

Japan Fashion Week in TOKYO 2008

(株)キャンザーオンズ「ENCADREURS」アートディレクター 「国立代々木競技場第一体育館」 東京 2008 年 2 月

「さいたま新都心駅前パブリックアート」 さいたま新都心駅前広場 恒久設置 2000年5月

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育内容の理解と方法(人間関係)		演習	齊藤 崇
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年·時期	必修·選択
15回	1 単位	2年後期	必修(保)、必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目			
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		小テスト (20%)、レポート内容 (80%)	
選択科目			

幼稚園要領,保育所保育指針,幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」を踏まえて、乳幼児期の人間関係の発達や保育内容「人間関係」を理解し、周囲の人的環境と関わる乳幼児の「人間関係」をに関わる保育実践の知識・理論を身につける。

#### 「授業全体の内容の概要]

ICT の活用や研究・調査資料を用いて、保育内容領域「人間関係」に関する具体的事例を読み解きながら、グループディスカッションやロールプレイを通して保育内容の知識及び理論について理解しながら学び、子どもの自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な保育を構想する方法を考えられるようにする。

## [授業修了時の達成課題(到達目標)]

- 1.乳幼児期の発達過程を理解しながら、幼稚園要領,保育所保育指針,幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容にかかわる保育実践の知識・方法について説明できる。
- 2.模擬保育やロールプレイを通して、保育内容領域「人間関係」の保育実践の視点を身に付けている。

# 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	現代の子どもを取り巻く人間関係の特徴と社会的背景
2	現代の子どもをめぐる課題と領域「人間関係」
3	保育・幼児教育の基本
4	乳幼児の育ちと「人間関係」
5	乳児保育における保育の3つの視点と領域「人間関係」
6	1歳以上3歳未満児のおける保育と領域「人間関係」
7	3歳以上児における保育と領域「人間関係」
8	領域「人間関係」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の育ち
9	様々な人との関わりにおける育ち
1 0	領域「人間関係」と小学校教育への接続・連携
1 1	領域「人間関係」と保育者の役割
1 2	領域「人間関係」と指導計画の実際
1 3	多文化保育と人間関係
1 4	特別な支援を必要とする子どもたちとともに育ち合う
1 5	模擬保育などで領域「人間関係」を学ぶ、授業のまとめ

## [使用テキスト・参考文献]

テキスト:「資質・能力を育む 保育内容 領域 人間関係 -こどもにとっての人間関係とは-」齊藤 崇 編著 (2023 年) 教育情報出版

参考文献: 幼稚園教育要領(平成29年度3月告示、文部科学省),保育所保育指針(平成29年度3月告示、厚生労働科学省),幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年度3月告示、内閣府/文部科学省/厚生労働科学省)

#### 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
特別支援教育・保育総論		演習	関谷 眞澄
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
30回	2 単位	2年前期・2年後期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		内容の習得度、知識をもとに自分なりの考えを述べる力を評価する。 ワークシート、課題レポート(約30%) 確認小試験(約70%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育の基礎的理解に関する科目			

障害を抱えるこどもやそのほかにも援助を必要とするこどもの発達や親(保護者)の子育てに対し、適切な支援ができる技能と専門職としての意識や倫理観を身につけることが、保育者(保育士及び幼稚園教諭)としての責務であることを認識すること、さらに支援に必要な基本的な知識の習得と自分なりの考えや視点を持てるようになることを目的・ねらいとする。

### [授業全体の内容の概要]

- ・「障害とは何か」、自分なりの視点を持つ。
- ・各障害の特性を理解し、発達への援助の視点や知識を理解する。
- ・保護者や家族の心理を理解し、援助の視点や方法について学ぶ。
- ・保育の目的や保育者の役割を理解し、障害児保育の理念や意義、方法などについて学ぶ。
- ・講義形式を中心とするがワークシートや振り返りシート、新聞記事などを活用していく。

# [授業修了時の達成課題(到達目標)]

- ・障害児保育の理念や制度・形態等を理解する。
- ・障害の特性を理解し、基本的な援助方法等を身につける。
- ・配慮が必要なこどもや家庭について特性や状況、基本的な援助方法を理解する。
- ・家族の心情やストレス、援助の基本について理解する。

# 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	2年前期
1	オリエンテーション 保育とは (意味と役割)
2	保育とは (こども観とこどもの理解)
3	保育とは (理念と責務)
4	「障害」とは (意味と概念)
5	「障害」とは (健康、いのちの重み)
6	障害特性と発達への援助 (発達の捉え方)
7	障害特性と発達への援助(援助の原則)
8	障害特性と発達への援助(知的障害児の特性の理解)
9	障害特性と発達への援助(知的障害児の保育場面での配慮)
1 0	障害特性と発達への援助(肢体不自由児の特性の理解)
1 1	障害特性と発達への援助(肢体不自由児の保育場面での配慮)
1 2	障害特性と発達への援助(視覚障害児の特性の理解)
1 3	障害特性と発達への援助(視覚障害児の保育場面での配慮)
1 4	中間の振り返りとまとめ
1 5	補足

## [使用テキスト・参考文献]

『僕のお姉さん』 丘修三(偕成社)

コンパクト版保育者養成シリーズ新版 『障害との共存』関谷眞澄(クオリティケア)

## 備考 定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
特別支援教育・保育総論		演習	関谷 眞澄
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
30回	2 単位	2年前期・2年後期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		内容の習得度、知識をもとに自分なりの考えを述べる 力を評価する。 ワークシート、課題レポート (30%) 確認小試験 (70%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育の基礎的理解に関する科目			

障害を抱えるこどもやそのほかにも援助を必要とするこどもの発達や親(保護者)の子育でに対し、適切な支援ができる技能と専門職としての意識や倫理観を身につけることが、保育者(保育士及び幼稚園教諭)としての責務であることを認識すること、さらに支援に必要な基本的な知識の習得と自分なりの考えや視点を持てるようになることを目的・ねらいとする。

### [授業全体の内容の概要]

- ・「障害とは何か」、自分なりの視点を持つ。
- ・各障害の特性を理解し、発達への援助の視点や知識を理解する。
- ・保護者や家族の心理を理解し、援助の視点や方法について学ぶ。
- ・保育の目的や保育者の役割を理解し、障害児保育の理念や意義、方法などについて学ぶ。
- ・講義形式を中心とするがワークシートや振り返りシート、新聞記事などを活用していく。

## [授業修了時の達成課題(到達目標)]

- ・障害児保育の理念や制度・形態等を理解する。
- ・障害の特性を理解し、基本的な援助方法等を身につける。
- ・配慮が必要なこどもや家庭について特性や状況、基本的な援助方法を理解する。
- ・家族の心情やストレス、援助の基本について理解する。

## 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1 障害特性と発達への援助(聴覚障害児の特性の理解)	
2 障害特性と発達への援助 (聴覚障害児の保育場面での配慮)	
3 障害特性と発達への援助(発達障害児の特性の理解)	
4 障害特性と発達への援助(発達障害児の保育場面での配慮)	
5 障害特性と発達への援助(配慮が必要な子への援助。病虚弱児等)	
6 障害特性と発達への援助(補足とまとめ)	
7 家族・保護者への支援(家族の心情と援助)	
8 家族・保護者への支援(きょうだいの心情と援助)	
9 家族・保護者への支援(母国語や貧困問題、病弱等、特別な支援および教育的ニーズを必要 こどもとその家族)	とする
10 障害児保育とは(理念、制度、対象、形態等)	
11 障害児保育とは(現状と課題)	
12 障害児保育と指導計画	
13 障害児保育での絵本	
14 振り返りとまとめ	
15 ストレス	

## [使用テキスト・参考文献]

『僕のお姉さん』 丘修三(偕成社)

コンパクト版保育者養成シリーズ新版 『障害との共存』関谷眞澄(クオリティケア)

### 備考 定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
社会的養護Ⅱ		演習	初谷 千鶴子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修·選択
15 回	I 単位	2年前期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		グループ討議の内容 (20%) 課題レポート (30%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目		授業内容確認小テスト(50%)	

社会的養護、施設が目指そうとしている方向性と、施設における家族、子どもへの支援のあり方を「子どもの最善の利益」の視点から学び、保育士の専門性に関わる知識・技術を修得することを目的とする。

- 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。
- 2. 施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。
- 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価について学ぶ。
- 4. 社会的養護に関わるソーシャルワークの方法・技術について理解する。

### [授業全体の内容の概要]

施設養護における保育士の、社会的養護の支援方法(実践)など、基本的な内容について子どもの権利擁護の 視点(子どもの最善の利益)から理解し、アクティブラーニングの手法を用い深める。さらに、各回のグルー プ学習やロールプレイを通し、施設養護における保育士としての人間性、専門性を高めることを学ぶ。

# [授業修了時の達成課題(到達目標)]

社会的養護実践に関する専門的視点と資質を構築する。

# 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	社会的養護における子どもの理解と支援の基本を、「子どもの最善の利益」の考え方から学ぶ。
2	社会的養護における保育士の専門性について、資質と倫理より学ぶ。
3	児童養護の体系と児童福祉施設の概要を理解する。
4	児童養護施設の暮らしについて、事例をもとに、グループワークを通し理解を深める。
5	乳児院での暮らしについて、事例をもとに、グループワークを通し理解を深める。
6	母子生活支援施設での暮らしについて、事例をもとに、グループワークを通し理解を深める。
7	医療型・福祉型障害児施設の特徴や暮らしについて、事例をもとに、グループワークを通し理解を深める。
8	児童自立支援施設と児童心理治療施設の特徴や治療的支援について、映像やグループワークを通し理
8	解を深める。
9	里親制度の特徴や実際の生活について、映像やグループワークを通し理解を深める。
1.0	虐待を受けて入所している子どもの支援について、事例を通し、グループワークやロールプレイング
1 0	を通し理解する。
1 1	児童養護施設職員から、映像や様々な事例を聞くことで、イメージを現実に近づける。(外部講師)
1 2	社会的養護に係る相談援助の知識・技術を学び、グループワークを通し実践に活かせるようにする。
1 3	入所から退所後までの支援の流れを学び、それぞれの生活場面に応じた事例を通し、グループワーク
1.5	やロールプレイングによりケアの方法を深める。
1 4	子どもとその家族支援の方法について、親子関係の調整や児童相談所との連携から学ぶ。
1 5	地域との連携や今後の課題について学ぶ。授業内容確認小テスト実施

# [使用テキスト・参考文献]

吉田眞理編者 (2022) 児童の福祉を支える 演習 社会的養護 II 萌文書林 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 (2018)

### 備考

# 実務経験

保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
子育て支援		演習	田中 賀奈子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
15 回	1 単位	2 年後期	必修(保)・選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目			
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		レポート課題 25%、発表 25%、授業内確認テスト 50%	
選択科目			

保育士は専門職として、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等といった支援(保育相談支援)を行っていくことが求められている。よって、保育相談支援の意義や基本的視点を理解することを目的とし、同時に、保育士が行う子育て支援についての事例検討や課題に対するグループワークを行うことにより、実践的に学び、人と関わる力を身に着けていくことをねらいとする。

## [授業全体の内容の概要]

この授業では、保育相談支援を行う保育士として必要となる、保護者にかかわる基本的な姿勢、態度、及び、 子育て支援の体制について学び、理解する。そのため、保育士が行う子育て支援の様々な事例を用いた話し合いやグループワークを実施し、レポートや発表の機会を設ける。

## [授業修了時の達成課題(到達目標)]

事例や話し合いを通し、学生自身が互いを理解しようとする態度を実践していくことから、観る力、聴く力、 待つ力、受けとめる力、伝える力等、人と関わる姿勢や態度を学び、保育士が行う子育て支援の方法や技術を 身につけていくことを達成目標とする。

# 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	子育て支援とは
2	子育て支援の意義
3	子育て支援の基本的価値・倫理
4	子育て支援の基本的姿勢
5	子育て支援の基本的技術
6	園内・園外との連携と社会資源
7	記録・評価・研修
8	日常会話を活用した子育て支援
9	文書を活用した子育て支援(1)
1 0	文書を活用した子育て支援(2)
1 1	地域子育て支援拠点における支援
1 2	入所・通所施設における子育て支援
1 3	まとめ
1 4	ふりかえり
1 5	今後の子育て支援の課題と展望

# [使用テキスト・参考文献]

子育て支援 15 のストーリーで学ぶワークブック 二宮祐子 株式会社 萌文書林 授業中に適宜資料を配布する

# 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教育相談		講義	齊藤 崇
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
15回	2 単位	2年後期	必修(幼)、選択必修(保)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目		小テスト (20%)、レポート内容 (80%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			

教育相談についての基本的知識を学ぶ、カウンセリングについての基本的知識を学ぶ、教育相談における子どもを取り巻く問題について理解を深める。

### [授業全体の内容の概要]

教育相談についての代表的な考え方や理論など講義を通して学ぶ、子どもの発達・子どもを取り巻く問題、保護者への支援についての知識を、講義を通して学ぶ、教育相談とカウンセリングについての違いを学び、幼稚園教諭・保育士としての在り方を理解する。

# [授業修了時の達成課題(到達目標)]

教育相談の基本的な考え方やカウンセリング・マインドの基本的知識が身につく。また、子どもの発達の主要な理論を説明でき、児童生徒をめぐる問題である発達障害や児童虐待、いじめ、不登校の基本的な知識を活用し、子どもの課題を考えることができる。

授業の日	1程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数	
1	教育相談とは①-教育相談の機能-
2	教育相談とは②-教育相談の対象-
3	子どもの発達を捉える①ーピアジェの認知的発達-
4	子どもの発達を捉える②-エリクソンの発達段階-
5	幼児児童生徒をめぐる問題①-発達障害-
6	幼児児童生徒をめぐる問題②-児童虐待-
7	児童生徒をめぐる問題①-いじめ-
8	児童生徒をめぐる問題②-不登校・不適応-
9	幼児児童生徒をめぐる問題③ー貧困・多様な家族形態-
1 0	カウンセリングとは①-ロジャーズの3条件・カウンセリング・マインドとは-
1 1	教育相談における実際①-保護者との連携-

# [使用テキスト・参考文献]

## 「使用テキスト〕

「教育相談の理論と方法」 齊藤 崇 著 大学図書出版

授業まとめ―教育相談の実際-

教育相談における実際②-専門家・専門機関との連携-

カウンセリングとは③-カウンセリングの基本的技法-

# [参考文献]

1 2

1 3

1 4

1 5

幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)、保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

カウンセリングとは②-カウンセリングの理論(精神分析・行動理論・人間性心理学)-

## 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育実践演習		演習	大代 愛子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
30回	1 単位	2年前期・後期	必修(保)
保育士養成課程による系列の	(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
総合演習		授業内でのレポート (40%)	
幼二種取得に関わる免許法	施行規則による区分	学習の参加姿勢(20%) 課題:ドキュメンテーションの作成(40%)	

・保育者に求められる資質や専門性について理解する。そこで、現代の子どもを取り巻く環境や、母子関係、 家族のあり方などの課題について現代を分析し、幼稚園や保育園の現場における保育者として、問題点の判断 と適切に行動し対応する仕方を修得する。

## [授業全体の内容の概要]

- ・保育の中で生じる問題や課題を解決していくために、自主的に情報を収集することを学習する。
- ・子どもを取り巻く環境や課題について分析・考察・検討を行うことにより、問題解決のための対応・判断方法について学習する。

### [授業修了時の達成課題(到達目標)]

- ・保育カリキュラムについて説明できる。
- ・保育に関する自発的な学習能力を習得する。

授業の日	日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数	2年前期
1	保育士という仕事(保育士の意義や役割)
2	子どもに対する理解と責任
3	保育の場における保育実践力①(環境を構成する力)
4	保育の場における保育実践力② (子どもの主体性を大切にする保育)
5	保育の場における保育実践力③ (保育における遊び)
6	保育現場で必要な援助(ロールプレイング)
7	保育現場で気になる子どもの行動の理解
8	保育の目標とカリキュラム、指導計画の作成
9	保育の場における援助の方法①(ロールプレイング)
1 0	保育の場における援助の方法②(ロールプレイング)
1 1	年齢ごとの保育の視点
1 2	子ども同士のトラブルへの対応 (事例を通して学ぶ)
1 3	保育場面におけるドキュメンテーションの作成
1 4	ドキュメンテーションの発表
1 5	保育実践力の振り返り

# [使用テキスト・参考文献]

テキスト:「これまでの学びと保育者への歩み」わかば社

参考文献:保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)、幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

# 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育実践演習		演習	大代 愛子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修·選択
30回	1 単位	2年前期・後期	必修(保)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
総合演習		■ 授業内でのレポート(60%) 学習の参加姿勢(20%) 課題レポート(20%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			

- ・保育士としての使命や役割を学び、職業人として自立していくため様々な保育実践に触れて保育実践力を養うことを 目的とする。
- ・保育に関する自発的な学習能力を習得する。(自主的に各自が責任を持ってグループのディスカッションに参加し学習する)

#### 「授業全体の内容の概要]

- ・実際の保育の中で生じる問題や課題を解決していくために、事例を通して、グループで話し合いながら分析・考察・ 検討を行い、問題解決のための判断方法や対応について学習する。
- ・保育者の使命感・責任感・倫理観等、社会性・対人能力、子ども理解・クラス運営、保育内容と援助について学ぶ。

### [授業修了時の達成課題(到達目標)]

- ・保育者の専門性について説明できる。
- ・保育に関する自発的な学習能力を習得する。(自主的に各自が責任を持ってグループのディスカッションに参加し学習する)

# 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

NA.	
コマ数	2年後期
1	保育の振り返り① (実習での実践の振り返り)
2	保育の振り返り② (エピソード記述による振り返り)
3	子どもの思いの理解と保育者の願い
4	保護者対応の実践①
5	保護者対応の実践②
6	安全管理と事故防止への取り組み
7	様々な場面における保育者の実践①(実際の保育場面を想定して)
8	幼保小の接続と地域との関係づくり
9	子どもへの保育の投げかけ方の実践①
1 0	子どもへの保育の投げかけ方の実践②
1 1	様々な場面における保育者の実践② (保育用語や文章の作成について)
1 2	倫理綱領から保育者の倫理を学ぶ
1 3	保育に関する現代的課題への取り組み
1 4	自分が思う「保育者の専門性」(レポートの作成)
1 5	保育実践力の振り返り

# [使用テキスト・参考文献]

テキスト:「これまでの学びと保育者への歩み」わかば社

参考文献:保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)、幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

## 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教職実践演習(幼)		演習	沖田健次・植松啓子・新村信貴
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
30回	2 単位	2年前期・後期	必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
その他		テーマごとに担当教員が観点別に到達度を評価し、未	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		<ul><li></li></ul>	
教育実践に関する項目		と、学生のレポート	等(40%)を踏まえ、教員としてについているかを確認し、単位認

#### 「授業の目的・ねらい」

教職課程の「学びの軌跡の集大成」として教員として最小限必要な資質能力の修得について確認するとともに 自己の課題を見出し必要に応じて不足している知識や技能を補い、その定着を図るものとする。

- ・教育に対する使命感を持ち、子どもたちとの関わりを通して教育観や自己認識を深め、教師として成長して いく姿勢を身につける。
- ・組織の一員としての自覚を持ち、目的や状況に応じて他の人と協力して適切に行動することができる。
- ・保護者や地域の人と良好な人間関係を築くのに必要な基礎的知識を持ち、教員としての適切な行動を考えることができる。
- ・子どもに対し受容的な態度で接することができる。子どもの発達や心身の状況に応じ、適切な指導を行うことができる。学習(主活動)の指導に必要な基本的知識や技能を身につける。
- ・子どもの発達状況や学級の状態に応じて、指導の方法や形態等を適切に工夫するための教育活動の把握および分析の手法を身につける。
- ・教員としての適性について自己認識を深め、課題を把握した長期的取り組みができる。

### [授業全体の内容の概要]

- ・教職の意義と役割・教員に必要とされる資質能力について理解しているか確認する。(講義・グループ討議)
- ・フィールドワークや事例研究を通じて、子ども理解の重要性や教員が担う責任の重さを理解しているか確認 する。(講義・事例研究)
- ・事例研究やフィールドワーク等を通じて学級担任の役割や実務、他教員との協力の在り方などを習得しているか確認する。(フィールドワーク・グループ討議)
- ・幼児期の人間関係の把握と指導として、子どもの発達や心身の状況に応じて抱える課題について受容し、適切に指導を行うことを理解しているか確認する。(グループ討議・ロールプレイング)
- ・事例研究やフィールドワーク等を通じて、個々の子どもの特性や状況に応じた保育者の役割と学級経営・保育現場における保護者対応を理解しているか確認する。(講義・フィールドワーク)
- ・教科・保育内容等の指導力について、専門分野の指導者による模擬授業や事例研究を通して教員としての表現力や子どもの反応を活かした指導法等を身に付けているか確認する。(グループ討議・ロールプレイング)
- ・教職履修カルテの作成を通して、幼稚園教諭として必要な教員として必要な資質能力の修得について確認する。

## [授業修了時の達成課題(到達目標)]

教職課程の「学びの軌跡の集大成」として教員として最小限必要な資質能力の修得について確認するとともに、 教育に対する使命感を持ち、子どもたちとの関わりを通して教育観や自己認識を深め、教師として成長してい く姿勢を身につける。

授業の日	日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	141 (2/2/2)			
1	ガイダンス・教職実践演習の目的と意義・履修カルテの作成について(講義)	【沖田・植松】		
2	子どもの心の動きを捉える保育者の視点	【植松・沖田】		
3	幼稚園教育の指導と評価	【植松・沖田】		
4	指導案の作成とその実践に必要なもの	【植松・沖田】		
5	保育内容等の指導力を学ぶ (集団・ゲーム遊びの展開と援助)	【沖田・植松】		
6	保育内容等の指導力を学ぶ (運動あそび指導①)	【福原・新村】		
7	保育内容等の指導力を学ぶ (運動あそび指導②)	【福原・新村】		
8	子どもの発達と心理学①	【新村・植松】		
9	子どもの発達と心理学②	【新村・沖田】		
1 0	保育内容等の指導力を学ぶ(運動あそび指導③)	【福原・沖田】		
1 1	保育内容等の指導力を学ぶ (運動あそび指導④)	【福原・沖田】		
1 2	子どもを守ること(保育現場のクライシスマネジメント)	【沖田・植松】		
1 3	保育内容等の指導力を学ぶ(遊びを科学する)	【沖田・植松】		
1 4	保育内容等の指導力を学ぶ(図画工作①)	【森・新村】		
1 5	保育内容等の指導力を学ぶ(図画工作②)	【森・新村】		
1 6	実習曲を使った楽器演奏(音楽・リズム①)	【堀切・前田・植松】		
1 7	実習曲を使った楽器演奏(音楽・リズム②)	【堀切・前田・植松】		
1 8	実習曲を使った楽器演奏(音楽・リズム③)	【堀切・前田・植松】		
1 9	保育内容等の指導力を学ぶ(行事の計画と準備)	【沖田・植松】		
2 0	実習曲を使った楽器演奏(音楽・リズム④)	【堀切・前田・植松】		
2 1	絵本から学ぶ「子どもの世界と保育者の役割」	【沖田・植松】		
2 2	保育内容等の指導力を学ぶ(造形表現①)	【森・新村】		
2 3	保育内容等の指導力を学ぶ(造形表現①)	【森・新村】		
2 4	気になる子どもへの対応	【沖田・新村】		
2 5	保育内容等の指導力を学ぶ(図形・折り紙)	【校長・沖田】		
2 6	保育の中の心理学①	【新村・植松】		
2 7	保育の中の心理学②	【新村・沖田】		
2 8	多様化する幼稚園の役割とその対応	【植松・沖田】		
2 9	これからの幼児教育	【植松・沖田】		
3 0	30 教職課程の振り返りと自己課題の確認(自己評価表作成) 【植松・沖田】			
[使用テキスト・参考文献]				
授業内にて適宜、資料等配布する。				
備考				
定期テン	ストは実施しない			

### 実務経験〔沖田〕

幼保連携型認定こども園(副園長)、幼稚園(延長)としての勤務経験を活かして、幼児教育における「環境」の意味や役割について、保育現場における具体的な事例や活動内容などにふれ、専門的知識と感性豊かな保育者となるためのより実践的な授業を実施する。

### 実務経験〔植松〕

平成元年度・10・20・30年度と時代の流れの中で幼稚園教育要領の内容がその都度、変わっていくことが多々あった。

しかし、一貫して文科省は変わらないこと、ゆるがないこととしては、子どもたちが環境を通して、遊びを通して、発達に応じて主体的にかかわることで学びにつながっていくことであると記載している。

それらを保育者として学んでいく学生に、市立幼稚園教諭、園長及び市幼児教育相談員として 38 年間の長い 勤務と経験の中で、具体的な実践を通して話しながら授業を展開させていく。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教育実習		実習	沖田 健次・新居 直美
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
実習20日	5 単位	1年次・2年次	必修(幼)
保育士養成課程による系列	(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		実習園の評価点[実習態度・指導案・日誌等]を(80%)実習に関するその他提出物(10%)事前・事後指導の学習参加態度(10%)を総合して評価する。うち 60%以上を合格とし、実習を全うできない場合は単位認定しない。	

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。そこで、一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。また、教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することで、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能等についての理解をさらに深めていく。

### 「授業全体の内容の概要]

幼稚園教育の目的、意義さらに幼稚園教諭の役割を実際の幼稚園現場の体験から学び、幼児期にふさわしい保育の展開がいかなるものであるのかを理解する。1年次は、附属幼稚園での実習にて、ICTを活用した観察・参加実習(6日間)、2年次は、参加・部分・責任実習(14日間)を通して、幼稚園教育の内容の理解を深め、保育者に必要な基礎的技術を保育実践を通して身に付けることが望まれる。保育実践には子ども達の実態等を踏まえた適切な指導案を作成する必要である。そして、日々の保育記録を作成し、振り返ることで新たな発見(気づき)を得ることが、保育者として必要な知識と技能の習得の基となる。

### 「授業修了時の達成課題(到達目標)

教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等についての向上を図る。

## 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

### 【1年次:通年】

附属こども園における観察・参加実習 (6日間)

実習①:附属こども園にて観察実習(幼稚園の生活と保育の流れを知る。)

実習②:附属こども園にて観察実習(子どもの発達段階と保育者の役割を知る。)

実習③: 附属こども園にて観察実習 (子どもの発達段階と子どもの姿。)

実習④:附属こども園にて参加実習

実習⑤⑥: 附属こども園にて観察・参加・部分実習(保育活動の計画及びその実践)

※1年次の教育実習(6日間)の事前・事後指導は教育実習指導I(1年次通年)にて行う。

### 【2年次:前期】

幼稚園及び幼保連携型認定こども園における観察・参加・部分・責任実習(14日間)

実習⑦~⑩:実習園における保育の実際(観察・参加・部分・責任実習)

※2年次の教育実習(14日間)の事前・事後指導は教育実習指導Ⅱ(2年次前期)にて行う。

### 「使用テキスト・参考文献]

大元千種著『実習の日誌と指導案 サポートブック』ナツメ社 横山洋子著『生活とあそびから見る「10の姿」』ナツメ社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 その他、授業内にて適宜、資料等配布する。

# 備考

定期テストは実施しない

教育実習には事前事後指導を含む(1年次・教育実習指導Ⅰ)(2年次・教育実習指導Ⅱ)

# 実務経験〔沖田〕

幼保連携型認定こども園(副園長)、幼稚園(延長)としての勤務経験を活かして、幼児教育における「環境」の意味や役割について、保育現場における具体的な事例や活動内容などにふれ、専門的知識と感性豊かな保育者となるためのより実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
教育実習指導Ⅱ(教育実習)		演習	沖田 健次
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年·時期	必修·選択
15 回	教育実習に含む	2年前期	必修(幼)
保育士養成課程による系列(の告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び	ド基準](試験やレポートの評価基準など)
その他		- 指導案の作成及び内容(40%) 実習報告書の提出と内容(40%) 発表等、授業への参加姿勢(20%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			

教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での自らの課題が明確となる。これは、実際の教育現場において、実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育を体験的・総合的に理解し、教育実践の基礎的な能力と態度を身に付ける必然性に基づいている。本授業では、教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で意欲的に教育実習に参加することを促し、教員免許取得までにさらに修得が必要な知識や技能等の理解を深めていく。

#### 「授業全体の内容の概要]

教育実習とは、幼稚園教育の意義や、幼稚園教諭の役割を実際の幼稚園現場の体験から学ぶことで、自らの課題を再考することができる。そこで、事前指導では、指導計画の立案・保育実践方法・保育観察の観点の理解を深めることで、教育実習における教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けていく。事後指導では、学生自身の「気づき」を書き記した実習ノート、指導計画を基に実習をふりかえる。

## [授業修了時の達成課題(到達目標)]

これまでに学んだ領域や教職に関する専門的な知識や理論に裏づけられた保育者の役割や責任感など、教育実践に必要な基礎力を確認する。教育実習ではより実践的な経験を積むことで、学級の実態や子どもの姿を知ること(観察と記録)そして、指導案作成と保育実践(計画、準備、実践、反省)の重要性を認識することで、新たな課題を見出し、さらに習得することが必要な知識や技能等についての理解を深めていく。

### 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	事前指導① 教育実習に向けて (実習課題の明確化)
2	事前指導② 実習計画の作成及び書類作成
3	事前指導③ 指導計画の作成及び教材等の準備 I
4	事前指導④ 指導計画の作成及び教材等の準備Ⅱ
5	事前指導⑤ 指導計画の作成及び教材等の準備Ⅲ
6	事後指導① 実習の振り返り I
7	事後指導② 実習の振り返りⅡ
8	事後指導③ 実習の振り返りⅢ
9	事後指導④ 自己課題の明確化(自己評価シートの記入)
1 0	幼稚園教育要領の確認と学習課題の整理
1 1	課題に向けての今後の自己の取り組み
1 2	実習報告書の作成と実習報告会について
1 3	実習報告書作成 I
1 4	実習報告書作成Ⅱ
1 5	実習報告書発表

# [使用テキスト・参考文献]

山本淳子編、田中亨胤監修『実習の記録と指導案』ひかりのくに

無藤 降編著『10の姿プラス5・実践解説書』ひかりのくに

文部科学省『幼稚園教育要領解説』 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館 その他、授業内にて適宜、資料等配布する。

## 備考

# 実務経験〔沖田〕

幼保連携型認定こども園(副園長)、幼稚園(延長)としての勤務経験を活かして、幼児教育における「環境」の意味や役割について、保育現場における具体的な事例や活動内容などにふれ、専門的知識と感性豊かな保育者となるためのより実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
日本国憲法		講義	松本隆
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
15回	2 単位	2年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
教養科目		小レポート (30%).	授業内確認テスト (70%)
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		なお、レポートについては、自分の頭できちんと	
教育職員免許法施行規則法第66条の6に定める科目		考えて書いているか 	どうかを重視します。

小・中学校の社会科の授業で「憲法」の話は聞いたことがあると思います。でも、「憲法は愛であふれている」 と感じたことはあるでしょうか。今、みなさんは自由に生きることができますが、そのような自由があるのは 「憲法」があるからです。

世界には日本国憲法のような法がないために人々の自由がない国があります。

この授業の目的・ねらいは「憲法が何なのか」を具体的な事例を通じて把握してもらうことです。

### [授業全体の内容の概要]

- ・一見とっつきにくい「憲法」を実務家である弁護士の立場からできる限りわかりやすく説明します。
- ・裁判例については、印象に残るような形で理解してもらえるよう工夫した説明を行う予定です。・また、憲法を通じて、将来、保育者として「法律を守ることの重要性・意味」も伝えられたらと思います。
- ・教員が弁護士であるため、みなさんにとって身近な法律についても取り上げるようにします。

## [授業修了時の達成課題(到達目標)]

- ・憲法の目的は何か、憲法と法律とで何が違うのか、憲法は誰のためにあるものなのかを理解すること ・具体的な裁判例を通じて憲法が存在する意味を知ること
- ・その上で、現在の日本において「憲法の果たす役割」を知ること

## 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	ガイダンス
2	憲法の概念、民主制と天皇制
3	戦争放棄
4	基本的人権と公共の福祉①(人権の享有主体、公共の福祉)
5	基本的人権と公共の福祉② (精神的自由権 (思想良心の自由、信教の自由など))
6	基本的人権と公共の福祉③(精神的自由権(表現の自由)、経済的自由権、平等権など)
7	基本的人権と公共の福祉④ (新しい人権など)
8	基本的人権と公共の福祉⑤(生存権、教育を受ける権利など)
9	基本的人権と公共の福祉⑥ (参政権、国家賠償請求権など)
1 0	統治機構①(三権分立、国会)
1 1	統治機構②(内閣)
1 2	統治機構③(裁判所)
1 3	最高法規、憲法改正
1 4	まとめ
1 5	基本的人権と公共の福祉(補遺)

### [使用テキスト・参考文献]

- 教員オリジナル実践事例集
- ・「檻の中のライオン」(楾大樹(はんどう・たいき)かもがわ出版
- · 「憲法判例百選 I · Ⅱ」(長谷部恭男) 有斐閣
- · 幼稚園教育要領(平成29年3月告示文部科学省)·保育所保育指針(平成29年3月告示厚生労働省)
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

### 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
英語一般		演習	中田啓一郎
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
30回	2 単位	2年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
教養科目			
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		試験・レポート等の	提出物で総合的に評価する。
教育職員免許法施行規則法第66条の6に定める科目			

国際化を踏まえて、保育士、幼稚園教諭として必要な基礎的な英語力の習得、拡充、コミュニケーション能力の育成を図る。幼児を英語に親しませる際の技能の習得も目指す。

## [授業全体の内容の概要]

英語の歌、英語のおとぎ話を通して基本的な英語表現を学ぶ。CD、DVD などの視聴覚教材等を用いて英語のリスニング力と発音を磨く。英語の歌を覚え、楽しく歌う練習をする。これらの様々な活動を通じ外国語と楽しく付き合う姿勢を学ぶ。

### [授業修了時の達成課題(到達目標)]

英語の歌や物語を通じ欧米の文化を理解し、英語力を拡充する。保育の現場や園児に関わること、想定されるシチュエーション別の英語の語彙を増やし、コミュニケーションの一助となるようにする。また幼児に簡単な英語を楽しく教えられるようにする。

## 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	2 年前期		
1	授業ガイダンス 英語	5の学習法	
2	保育英単語の練習①	映画英語のリスニング・発音練習	
3	保育英単語の練習②	映画英語のリスニング・発音練習	英語の歌の解説
4	保育英単語の練習③	映画英語のリスニング・発音練習	英語の歌の練習
5	保育英単語の練習④	映画英語のリスニング・発音練習	英語の歌の練習
6	保育英単語の練習⑤	映画英語のリスニング・発音練習	英語の歌の解説
7	保育英単語の復習	映画英語のリスニング・発音練習	英語の歌の練習
8	保育英単語の練習⑥	映画英語のリスニング・発音練習	英語の歌の練習
9	保育英単語の練習⑦	映画英語のリスニング・発音練習	英語の歌の解説
1 0	保育英単語の練習⑧	映画英語のリスニング・発音練習	英語の歌の練習
1 1	保育英単語の練習⑨	映画英語のリスニング・発音練習	英語の歌の練習
1 2	保育英単語の練習⑩	映画英語のリスニング・発音練習	
1 3	保育英単語の復習	映画英語のリスニング・発音練習	
1 4	前期の復習		
1 5	まとめ		

# [使用テキスト・参考文献]

教科書・使用しない

参考文献・名作映画完全セリフ集 スクリーンプレイ・シリーズ

# 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
英語一般		演習	中田啓一郎
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
30回	2 単位	2年後期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び	ド基準](試験やレポートの評価基準など)
教養科目			
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		試験・レポート等の	提出物で総合的に評価する。
教育職員免許法施行規則法第66条の6に定める科目			

国際化を踏まえて、保育士、幼稚園教諭として必要な基礎的な英語力の習得、拡充、コミュニケーション能力の育成を図る。幼児を英語に親しませる際の技能の習得も目指す。

## [授業全体の内容の概要]

英語の歌、英語のおとぎ話を通して基本的な英語表現を学ぶ。CD、DVD などの視聴覚教材等を用いて英語のリスニング力と発音を磨く。英語の歌を覚え、楽しく歌う練習をする。これらの様々な活動を通じ外国語と楽しく付き合う姿勢を学ぶ。

### [授業修了時の達成課題(到達目標)]

英語の歌や物語を通じ欧米の文化を理解し、英語力を拡充する。保育の現場や園児に関わること、想定されるシチュエーション別の英語の語彙を増やし、コミュニケーションの一助となるようにする。また幼児に簡単な英語を楽しく教えられるようにする。

# 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	2年後期
1	保育英単語の練習⑪ 映画の世界を深く知る 英語の歌の解説⑤
2	保育英単語の練習⑫ 映画の世界を深く知る 英語の歌の練習
3	保育英単語の練習⑬ 映画の世界を深く知る 英語の歌の練習
4	保育英単語の練習⑭ 映画の世界を深く知る 英語の歌の解説⑦
5	保育英単語の練習⑮ 映画の世界を深く知る 英語の歌の練習
6	保育英単語の復習 映画の世界を深く知る 英語の歌の練習
7	保育英単語の練習⑯ クリスマスの物語の英語 英語の歌の解説⑧
8	保育英単語の練習⑪ クリスマスの物語の英語 英語の歌の練習
9	保育英単語の練習® クリスマスの物語の英語 英語の歌の練習
1 0	保育英単語の練習⑩ 名作映画の名セリフ① 英語の歌 ①②復習
1 1	保育英単語の練習② 名作映画の名セリフ② 英語の歌 ③④復習
1 2	保育英単語の復習 名作映画の名セリフ③ 英語の歌 ⑤⑥復習
1 3	保育英単語1年間の復習 名作映画の名セリフ④ 英語の歌 ⑦⑧復習
1 4	後期の復習
1 5	1年間のまとめ

# [使用テキスト・参考文献]

教科書・使用しない

参考文献・名作映画完全セリフ集 スクリーンプレイ・シリーズ

# 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
体育講義		講義	福原 千枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修•選択
15回	2 単位	2年後期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び	「基準](試験やレポートの評価基準など)
教養科目		授業の習熟度(授業内確認テスト)(60%) 課題(30%) 授業の取り組み姿勢(10%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
教育職員免許法施行規則法第 66 条の 6			

- ・一般教養として身につけておきたい、運動・スポーツの特性・成り立ちについて理解する。
- ・生涯を通して健康であること、特に子どもの発達において運動遊びがいかに重要かについて理解する。
- ・模擬授業を通して、運動遊びのリーダーとしての力を養い、指導技術の向上を目指す。
- ・保育・教育現場で必要となる乳幼児の一次救命処置(AEDを含む)を習得する。

#### 「授業全体の内容の概要]

前半は、1年次に学んできた運動遊びを教え合う模擬授業を行う。各自1回はリーダー役、他は子ども役となり、運動遊びの進め方について実践的に学習する。後半講義では、健康、運動の重要性、特に子どもの発達を支える運動遊びの大切さと指導のポイントについて理解を深める。また、自らのこれからの健康について考える機会とする。さらに、乳幼児の一次救命処置について日赤講師による幼児安全法講習を実施し習得する。

### [授業修了時の達成課題(到達目標)]

幼児にとって、運動遊びがいかに重要かを理解し、保育者として運動遊びを効果的に指導・援助ができる。 乳幼児の一次救命処置(AEDを含む)を習得し、緊急の事態に対応できる。

生涯を通して健康であることの大切さを理解し、健康に留意して社会人として働くことができる。

## 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	オリエンテーション 幼児期の運動遊びについて、模擬授業の計画
2	模擬授業① (主に身体を使った伝承遊び・身体表現遊び)
3	模擬授業②(鬼遊び)
4	模擬授業③(力くらべ遊び)
5	模擬授業④(ボール遊び)
6	体育、スポーツ、運動の特性と成り立ちについて
7	幼児期の運動遊びについて①重要性
8	幼児期の運動遊びについて②効果(身体の発達、動きの発達)
9	幼児期の運動遊びについて②効果(心の発達、社会性の発達、知的な発達)
1 0	幼児期の運動遊びについて③生活と遊び
1 1	幼児期の運動遊びについて④指導・援助、安全
1 2	幼児安全法講習(一次救命処置(AEDを含む))日赤講師
1 3	働く人の健康について①健康の要因
1 4	働く人の健康について②かかりやすい病気と予防
1 5	振り返りとまとめ

### [使用テキスト・参考文献]

「保育と幼児期の運動遊び」岩崎洋子編 萌文書林 幼稚園教育要領、保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

### 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
体育実技		演習	福原 千枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年·時期	必修·選択
15回	1 単位	2年前期	必修(保)・必修(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び	「基準」(試験やレポートの評価基準など)
教養科目			
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分		実技の習熟度(60%)、課題レポート(30%)   授業への取り組み方(10%)	
教育職員免許法施行規則法第66条の6に定める科目			

- ① 生涯に渡って自身が健康で安全な生活が送れるようにすること。自分で自らの健康を保ち、さらに健康になっていくこと。(健康の保持・増進)
- ② 子ども達が健康な生活ができるよう導くこと。子ども達の健康を培う上で大切な運動遊びが楽しくできるよう援助・助言・指導ができるようになること。

### [授業全体の内容の概要]

幼児の体操、幼児向けのフォークダンスを学び、模範演技、指導方法を習得する。ボールゲーム大会が主催できるよう、試合の組み立て方、得点記録方法を学ぶ。実際にボールゲームを実践しその楽しさを知るとともに、進行方法、審判、得点記録について実践的に学ぶ。子どもが楽しめるボールゲームを創作する。

### 「授業修了時の達成課題(到達目標)

体操、フォークダンスを習得し、子ども達が真似たくなるような手本ができ、楽しく指導・援助できるようになる。試合の組み立て方、得点記録方法を理解・習得し、ボールゲームを楽しく主催できるようになる。子どもが楽しめるボールゲームを考え、進行することができるようになる。

## 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	ガイダンス、幼児向けのフォークダンス「マイムマイム」、「タタロチカ」
2	幼児向けのフォークダンス「キンダーポルカ」、「セブンステップ」、幼児の体操「アヒルのダンス」
3	幼児向けのフォークダンス「パティケイクポルカ」、幼児の体操「バナナくんたいそう」
4	幼児の体操「ちょっとだけ体操」
5	幼児の体操「ディズニー体操」
6	幼児の体操「かえるのたいそう」
7	幼児の体操「秘伝ラーメン体操」
8	幼児の体操「どうぶつたいそう1.2.3」
9	「ラジオ体操 第1」(座って行うもの)
1 0	「ラジオ体操 第1」(立って行うもの)
1 1	ボールゲームの実践(ボッチャ)DVD、ルール、練習、練習試合
1 2	ボールゲームの実践(ボッチャ)練習、試合(リーグ戦)
1 3	ボールゲームの実践(ボッチャ)練習、試合(リーグ戦)
1 4	ボールゲームの実践(ボッチャ)練習、試合(トーナメント戦)、子どもが楽しむボッチャゲーム
1 5	ボールゲームの実践(ボッチャ)子どもが楽しむボッチャゲーム

# [使用テキスト・参考文献]

授業時に適宜、資料を配布する。 保育所保育指針、幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

## 備考

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育実習Ⅱ		実習	齊藤 静枝・初谷 千鶴子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年•時期	必修·選択
実習11日(保育所)	2 単位	2年次	必修(保)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育実習		実習施設からの評価票(70%) 実習日誌(20%) 巡回指導員の報告書(10%)	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
その他			

- ・保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
- ・子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
- ・既習の教科目や保育実習Iの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。
- ・保育の計画・実践・観察・記録及び評価について、実際に取り組み、理解を深める。

### [授業全体の内容の概要]

- ・保育所実習は2年次に11日間90時間以上実施する。
- ・実習中に、教員の巡回指導を受ける。

### 「授業修了時の達成課題(到達目標)]

- ・子どもについての理解と保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践について理解する。
- ・実習における自己の課題を明確にする。

# 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 保育所の役割や機能について理解する。
- 2 養護と教育が一体となって行われる保育の実際を学び理解する。
- 3 観察に基づく保育の理解
  - (1)子どもの心身の状態や活動の観察
  - (2)保育士等の援助や関わり
  - (3)保育所の生活の流れや展開の把握
  - (4)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育
- 4 保護者や家庭への支援と地域社会等との連携
  - (1) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者に対する子育て支援
  - (2) 関係機関や地域社会との連携・協働
- 5 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
  - (1)全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
  - (2)作成した指導計画に基づく保育の実践と評価
- 6 保育士の多様な業務と職業倫理について学ぶ。
- 7 保育士としての自己課題の明確化を図る。

### [使用テキスト・参考文献]

部分実習指導案集 萌文書林

実習の日誌と指導案サポート ナツメ社

保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (2018)

### 備考

# 実務経験〔齊藤〕

公立保育所において保育士(正職)として 40 年間勤務する内、クラス担任 30 年、園長、副園長として 10 年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。

## 実務経験〔初谷〕

保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者
保育実習指導Ⅱ		演習	齊藤 静枝・初谷 千鶴子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年·時期	必修·選択
15回	1 単位	2年次	必修(保)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育実習		指導提出案の提出と内容40% 実習報告書の提出と内容40% 実習報告書の発表20%	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
その他			

- ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
- ・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
- ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
- ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。
- ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
- ・子どもについての理解と保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践について理解する。

### [授業全体の内容の概要]

「保育実習 I」を踏まえ、「保育実習 II」の事前事後指導を行う。事前指導では、まず実習の意義や目的、保育所の役割や機能について確認する。乳幼児の発達過程の理解を深める。これらのことを踏まえて指導計画の作成を試みる。事後指導では、個々の実習ノート、指導計画を基に保育を振り返る。

## 「授業修了時の達成課題(到達目標)]

保育をめぐって自己の課題を明確にし、保育に対する認識を新たにする。振り返りや課題、自身の保育観・児 童観を言語化し、発表を行う。

### 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

	7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	
コマ数		
1	実習に向けての準備	
2	実習に向けての準備 (実習課題の設定)	
3	保育の全体的な計画に基づく具体的な指導案の作成	
4	指導計画の作成(0歳児の作成)	
5	指導計画の作成(1歳児の作成)	
6	指導計画の作成 (2歳児の作成)	
7	指導計画の作成 (3歳児の作成)	
8	指導計画の作成 (4歳児の作成)	
9	指導計画の作成 (5歳児の作成)	
1 0	実習に向けての準備 (実習前の事前確認)	
1 1	実習事後指導 (実習の振り返り・課題の明確化)	
1 2	実習事後指導 (課題に向けて今後の自己の取り組み)	
1 3	実習事後指導(報告書作成 テーマの決定)	
1 4	実習事後指導(報告書作成 仕上げ)	
1 5	実習事後指導 (報告書発表)	

# [使用テキスト・参考文献]

- ・河合高鋭・石山直樹編 (2020) 『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』みらい
- 一年次使用教科書一式

参考資料等:幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(2018)

DVD「はじめての保育実習 I·II」株式会社新宿スタジオ・「協働する保育実習」岩波映像株式会社

### 備考

# 実務経験〔齊藤〕

公立保育所において保育士(正職)として 40 年間勤務する内、クラス担任 30 年、園長、副園長として 10 年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。

## 実務経験〔初谷〕

保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。